令和８年度

すくわくプログラム活動報告書

（実施対象：４・５歳児クラス）

モニカ都立大園

テーマ

さつまいもと私たち

設定理由

植物が育つ過程に関心を持つ姿が見られており、変化や不思議さを発見してほしいと思い、園庭でさつまいもを育てることにした。土づくりから苗植え、日々の観察、目に見える葉やツルの変化だけでなく、土の中で起きている見えない変化にも想像を広げることができると考えた。ただ育てることを目的とせず、育つ過程にある発見や問いを楽しむことが、子どもたちの自然への関心や探究する姿勢につながることを願い、このテーマにした。

対象クラス　４・５歳児クラス・２５名

活動のねらい　自然とわたしたちが関わり合うことの面白さや豊かさを感じる

キーワード　「さつまいもは、何と関わりながら、どのように育っていくのだろう？」

活動期間　令和８年５月～１０月

活動回数　計３回

活動①　苗から始まる物語





準備物

培養土｜さつまいものツル苗｜カゴ

環境構成

12〜13人ずつ行う。
土の状態や感触、植物が育つ環境に目を向ける問いを投げかけながら、行う。

活動②　伸びる、広がる



準備物

じょうろ｜かご（草むしり用）

環境構成

4〜5人ずつ行う。
葉やツルの成長から見える変化について話したり、見えない土の中の変化を想像したりしながら対話を重ねられるようにする。

活動③　ツルの先に待っていたもの

準備物　かご｜新聞紙

環境構成　6〜8人ずつ行う。
収穫したさつまいもの形や大きさの違いなどに気づきながら、子どもたちとこれまでの活動の振り返りを行う。







R8.5

① 苗から始まる物語



まずは土を耕す。
雑草を抜く。
苗をお迎えするための環境を整える。

土に触れていると、その柔らかさや重さを感じたり、
土の中に隠れている小さな生き物に出会ったり。



子どもたちの関心は、さつまいもだけでなく、
その成長を支える土へも広がっていきます。



「本当にお芋できるの？」
「どこに（お芋が）付くんだろう？」
「この苗、虫さんたちに食べられちゃうかな」
「大きなさつまいもになってほしいな」

土の感触。小さな生き物との出会い。そして、苗に託した期待。
子どもたちとさつまいもの、長い長い時間の始まり。

R8.6

②伸びる、広がる

日を追うごとにその姿を変える苗。
葉の数が増え、ツルは地面を覆うように伸びていきます。

目に見える葉やツルの成長。



“土の中はどうなっているの？”

「もうお芋できてるんじゃない？」
「きっとまだ生まれたばっかりだよ」
「カブトムシの幼虫と仲良く遊んでるよ」
「暑いから、雨が降ったら気持ちいいって言ってる」

見える世界から、見えない世界へ。
子どもたちの想像が広がる。

R8.10

③ツルの先に待っていたもの

いよいよ待ちに待った収穫の日。
長く伸びたツルを辿りながら、土の中に隠されているさつまいもを探します。



「どこにつながっているんだろう？」

期待が膨らむと笑顔になる。
ツルを引っ張ると・・・土の中からさつまいもが姿を現しました。

「見て！大きい」
「見て！なんか変な形！」

大きさも形も、一つひとつ違うさつまいも。
驚きや喜びが広がる瞬間。





苗から始まった数か月の物語。

これまで見つめてきた葉やツルが、土の中で起きていた変化とつながった。
そして、一つひとつ異なる形や大きさは、自然が生み出す多様さや面白さを教えてくれた。

成長を見守ってきた時間と経験が重なり合う、瞬間。

使用物　培養土｜さつまいものツル苗｜かご類｜ミニ机

テーマ：さつまいもと私たち

全体の振り返り

さつまいもが育つとはどういうことなのか。土づくり、生長、収穫を通して、自然を観察するだけでなく、自然に自らが働きかける、という関わりが持てた。育つ環境の中に、「わたしたち」が関わったことで、「わたしたち」と自然のつながり、共感的な関係性が育まれたのではないかと思う。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146